

リテラシー研究集会 2009「複言語・複文化主義と言語教育」

言語意識教育—多言語・多文化に開かれた リテラシー教育を目指して—

2009年9月18日 於早稲田大学
福田浩子（茨城大学）・吉村雅仁（奈良教育大学）

0. 本日の発表の流れ

1. はじめに
2. 言語意識教育とは何か
3. 多言語言語意識モデルによる「複言語活動のすすめ」
4. おわりに

1. はじめに

【小学校の外国語活動】

「総合的な学習の時間とは別に高学年において一定の授業時数（年間35単位時間、週1コマ相当）を確保する一方、教科とは位置づけない」

（中央教育審議会，2008，pp.64-65）

➤英語を原則とする

1. はじめに

【小学校の外国語活動の目的】

「小学校段階にふさわしい国際理解やコミュニケーションなどの活動を通じて、コミュニケーションへの積極的な態度を育成するとともに、言葉への自覚を促し、幅広い言語に関する能力や国際感覚の基盤を培うこと」

（中央教育審議会，2008，p.35）

1. はじめに

【内なる国際化・多文化共生の実態】

外国人登録者数 2,217,426人（190カ国）

中国（香港・台湾を含む） 29.6%

韓国・朝鮮 26.6%

ブラジル 14.1%

（法務省入国管理局，2009）

1. はじめに

公立の小・中・高等学校等に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒（平成20年9月1日現在）

28,575人（対前年比12.5%増、過去最高）

母語別：ポルトガル語 11,386人（39.8%）

中国語 5,831人（20.4%）

スペイン語 3,634人（12.7%）

（文部科学省，2009）

1. はじめに

吉村 (2003)

【大学生の言語観調査】

フランスと英語を始めとした西洋言語

→肯定的なイメージ

日本語をのぞくアジア・アフリカ言語

→否定的なイメージ

2. 言語意識教育とは何か

2. 1. イギリスの言語意識運動

母語としての英語教育が十分な成果を上げていない

> M. A. K. Halliday を長とするプログラム
Doughty, P., Pearce, J., and G. Thornton
(Eds.). (1971). *Language in Use: A
Schools Council Programme in Linguistics
and English Teaching.*

2. 言語意識教育とは何か

7歳の時にリテラシーに問題のあった生徒達が外国語学習でも暗礁に乗り上げている

>英語（国語）教育と外国語教育の教師達は共通の問題を抱えており、言語教育という枠組みで打開策を見出す必要があるという認識



話し合いの場が設けられた
(福田, 2007)

2. 言語意識教育とは何か

>NCLE (National Congress on Languages in Education) に「言語への気づき」の作業部会 (LAWP) が設けられた

Hawkins, Sinclair, Byram, Trim, Downesら13名が中心となって、言語学者、教育者、試験関係者、出版社等言語教育の関係者が一堂に会して議論 (Donmall, 1985)

2. 言語意識教育とは何か

【言語への気づき/言語意識の定義】

A person's sensitivity to and conscious awareness of the nature of language and its role in human life

(言語の性質と人間の生活での言語の役割に対する、個人の感受性と意識的な気づき)

(Donmall, 1985, p.7; 福田, 2007, p.103)

2. 言語意識教育とは何か

イギリスの言語意識運動

>Hawkins(1984). *Awareness of Language: An Introduction.*

>約300校で言語意識教育実施 (Donmall, 1985)

1988年 ナショナル・カリキュラム
「言語」は教科としては入らなかった

2. 言語意識教育とは何か

その後の「言語への気づき」は…

イギリスの教育制度では…

English Languageの上級レベルのテスト
ナショナル・リテラシー・ストラテジー

概念的には…

James & Garrett(1992)

van Lier(1996)

13

2. 言語意識教育とは何か

【言語への気づき/言語意識の定義】

Explicit knowledge about language and conscious perception and sensitivity in language learning, language teaching and language use

(言語についての明示的知識と、言語学習、言語教授、言語使用における意識的な理解と感受性)

(Association for Language Awareness, 2006; 福田, 2007, p.103)

14

2. 言語意識教育とは何か

2. 2. 複言語主義における新たな言語意識教育の出現

「言語への気づき」の考え方は世界へ

Council of Europe (2001)

CEFRと複言語・複文化主義

15

2. 言語意識教育とは何か

Downes 「言語発見プロジェクト」

特定の1言語(例えばフランス語)を教えるのではなく、複数の言語に触れさせることによって児童の言語への気づきを育て、中等教育からの1言語の継続的な学習に備える ⇨ **多言語言語意識モデル**

➢ 週60分(分割可) 2年間で6言語を扱う

➢ 共通教材を使用し、学級担任などが担当する

➢ 態度、言語能力の質的、量的評価を実施

(Association of School and College Leaders, 2007)

16

2. 言語意識教育とは何か

【学校向けの広い定義】

- 1) 言語の基本構造
- 2) スピーチと書くことつながり
- 3) 文化的な文脈の中での言語
- 4) 言語と地理
- 5) 言語と歴史
- 6) 言語と社会、 についての知識

(Downes, 2006; 福田, 2007, p.111)

17

2. 言語意識教育とは何か

【児童たちに言語意識教育を行う目的】

- 1) コミュニケーションの現象について興味を刺激する
- 2) 言語学習を文脈の中に入れ込む
- 3) 諸言語の領域や、なぜそんなに多くの言語があるのか、言語がどのように変化し発達していくのかを示す
- 4) 注意深い観察を奨励し、聴解力を養う

(Downes, 2006; 福田, 2007, p.111)

18

2. 言語意識教育とは何か

2. 3. 言語意識教育の目指すもの

- 母語能力を向上させ、母語で得られる言語への気づきを外国語教育に援用する
- 多言語を学ぶことによって外国語を相対化し、言語とはどういうものか、言語を学ぶとはどういうことかに気づかせると同時に、様々な文化に触れ、文化の多様性も意識させる

👉 開かれたリテラシー教育

19

3. 多言語言語意識モデルによる「複言語活動のすすめ」

3. 1. 「英語を原則とする」外国語活動

- 言語的少数派の児童：言語学習負担の増大、自らの言語に関する劣等意識
 - 多数派の日本語話者児童：言語やその背景となる文化の多様性への開かれた意識、それを尊重する態度形成が困難
- 英語活動反対論：小学校現場から見れば、理解はできても具体的には受け入れられない理想論

20

3. 多言語言語意識モデルによる「複言語活動のすすめ」

3. 2. 小学校中学年における多言語言語意識モデル

➢ 「複言語活動のすすめ」

- ・ 日本手話 ・ ブラジルポルトガル語 ・ 中国語
- ・ スペイン語 ・ フィリピン語 ・ 韓国語
- ・ ベトナム語 ・ インドネシア語 ・ タイ語

言語選択の基準：

学校教育現場における「内なる国際化」 +
日本人の少数派言語

21

3. 多言語言語意識モデルによる「複言語活動のすすめ」

3. 3. 多言語言語意識モデル実践計画(1)

学年・領域	学期	言語	時数	内容
3年生 総合的な学習の時間	1	ブラジルポルトガル語	10	基本表現、基本語彙、文化的側面（調べ学習）
	2	中国語	10	基本表現、基本語彙、文化的側面（調べ学習）
	3	スペイン語	10	基本表現、基本語彙、文化的側面（調べ学習）
4年生 総合的な学習の時間	1	韓国語	10	基本表現、基本語彙、文化的側面（調べ学習）
	2	フィリピン語	10	基本表現、基本語彙、文化的側面（調べ学習）
	3	日本手話	10	基本表現、基本語彙、文化的側面（調べ学習）

22

3. 多言語言語意識モデルによる「複言語活動のすすめ」

3. 3. 多言語言語意識モデル実践計画(2)

学年・領域	学期	言語	時数	内容
3年生 総合的な学習の時間	1	中国語、韓国語、フィリピン語を同時に	5	音と文字、挨拶、果物、数字、月、歌
	2		5	色、動物、基本表現、動物の鳴き声
	3		5	曜日、歌、文化的側面（調べ学習）
4年生 総合的な学習の時間	1	ベトナム語、インドネシア語、タイ語を同時に	5	音と文字、挨拶、果物、数字、月、歌
	2		5	色、動物、基本表現、動物の鳴き声
	3		5	曜日、歌、文化的側面（調べ学習）

23

3. 多言語言語意識モデルによる「複言語活動のすすめ」

3. 3. 多言語言語意識モデル実践計画（言語的少数派児童が在籍する場合）

- ・ 当該児童の背景言語を優先的に含める
→ 少数派言語の母語話者を情報提供者にすることで学習効率を高められる上、少数派児童自身の自己肯定感育成にも繋がる
(実例：タイ児童 + 短期滞在の米国児童)

24

4. おわりに

言語や文化に対する開かれたリテラシー教育

↓
教育政策提言だけでは不十分

↓
実践可能な教材・手法を示すこと

↓
実践を評価し、効果を示すこと
(本提案がそのたたき台の一つ)

25

引用・参考文献

- 中央教育審議会(2008).『幼稚園,小学校,中学校,高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について(答申)』中央教育審議会.
- 福田浩子(2007).複言語主義における言語意識教育—イギリスの言語意識運動の新たな可能性—『異文化コミュニケーション研究』19,101-119.
- 福田浩子(2008a).ことばの教育をどうするか—日本の初等・中等教育における言語意識教育の必要性—『青山国際コミュニケーション研究』11,5-22.
- 福田浩子(2008b).小学校の外国語活動再考—外国語教育と国際理解教育の関係をめぐって—『人文コミュニケーション学論集』5,49-65.

26

引用・参考文献

- 法務省入国管理局(2009).平成20年末現在における外国人登録者統計について.
<http://www.moj.go.jp/PRESS/090710-1/090710-1.html>
- 松山雅子(2002).3.イギリスの場合 国立教育政策研究所『国語科系強化のカリキュラムの改善に関する研究—歴史の変遷・諸外国の動向—』(pp.131-145)「教科等の構成と開発に関する調査研究」研究成果報告書(9).
- 文部科学省(2009).「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受け入れ状況等に関する調査(平成20年度)」の結果に付いて
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/07/1279262.htm

27

引用・参考文献

- 吉村雅仁(2003).国際理解教育における英語教育の役割—言語イメージ調査からの示唆—『国際理解教育』9,42-61.
- Association for Language Awareness.(2006).Language Awareness.
http://www.lexically.net/ala/la_defined.htm
(2006/10/22)
- Association of School and College Leaders(2007).Esmée Fairbairn Foundation Project: Developing Foreign Language Awareness in Primary Schools.
<http://www.ascl.org.uk/default.aspx?id=1503>
(2007/3/18)
- Council of Europe(2001).*Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.

28

引用・参考文献

- Donmall, B. G. (Ed.). (1985). *Language Awareness*. NCLE reports and papers 6. London: CILT.
- Doughty, P., Pearce, J., and G. Thornton (Eds.).(1971). *Language in Use: A Schools Council Programme in Linguistics and English Teaching*. London: Edward Arnold.
- Downes, P. (2006). *Language Awareness in UK Primary Schools*. (*2006年7月5日にルマン工科大学で開催されたEdiLicにおける発表資料)

29

ありがとうございました

福田浩子 (hirokof@mx.ibaraki.ac.jp)
吉村雅仁 (yshmr@nara-edu.ac.jp)
「複言語活動のすすめ」URL
<http://www.yoshimuramasa.jp/>

本研究は、平成19年~20年度科学研究費補助金基盤研究(C)課題番号19520474「言語意識教育:小学校からの英語・国語教育への提言」(研究代表者:福田浩子)第3回補報「ことばと教育」研究助成「小学校における言語意識教育のための教材研究と開発」(研究代表者:吉村雅仁)の成果の一部です。

30